

【日時】 2011年6月25日(土)～26日(日)

【メンバー】 L鈴木、SL古野、高橋、北沢、他1名

私にとって大人になってから初めての沢登りが今回の山行だった。当初は会山行をした丸山にある沼の又沢に行く計画であった。私は、会山行に行くことができなかったため、もう一つの会山行と思い楽しみにしていた。しかし、天気は雨模様。そこで急きょ東北の山猫森を目指す保呂内沢に変更となった。山猫森という名前を聞き、なんてメルヘンチックだろうと思い、行き先を変更してもわくわくする気持ちは薄れなかった。それと同時に、不安もあった。優しいトマの先輩達のおかげで不安要素は次々となくなっていったもののどうしても拭えない不安とは、沢登りが好きではなかったらどうしようという不安である。しかし、考えても仕方のないことと割り切り東北へ向かった。

駐車をし、装備を整え、いざ沢へと思うと、すでに古野さんの腰には山菜が。しかも、ビニール袋にそれなりの量が入っている。素人の私にはただの草にしか見えなかったが、見る人が見ればそれは食材なのだ。



鮮やかな緑に囲まれる鎌内沢

いている探検家の気分を味わえる。

驚いたままの状態で鎌内沢についた。水量が多いが保呂内沢にとりあえず行ってみようということになり、向かう。その途中でウド、ウルイを教えてもらい下ばかり向いていないで探してみようと顔を上げると、不思議なことにただの草が山菜に見えてくるではありませんか。非常に感動した。

保呂内沢では、2倍ちかく水量が増しているということで沢を登るのは断念した。だが、渡渉訓練の練習とあって高橋さんについてもらい対岸まで渡った。水の力ってこんなに強いのかと実感した。

鎌内沢に戻って遡行すると、堰堤があり高巻きをする。しばらく行くと、大きな滝が現れた。盗人滝である。水しぶきといい、かっこよかった。この滝を高巻きするときに、藪こぎや高巻きってとても面白いと思った。木々を引っ張り登っていくのはアスレチックのようで、また、藪こぎはジャングルを歩

沢登りって面白いかもと思った瞬間だった。

<http://www.tomanokaze.dojin.com/>

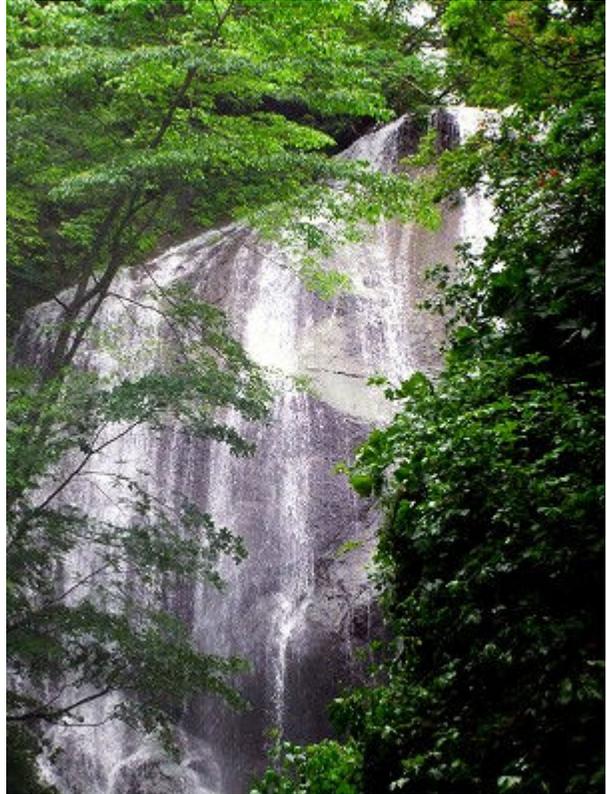
滝の上に着き少し歩くと、本日のテン場についた。おじさま方がイワナを釣りに行っている間、テントを張ったり薪を集めたりした。大きな薪を小さくできないで困っていると、鈴木さんが岩にぶつけて小さくした。生活の知恵ならぬ、たぎの知恵である。他にも、ミズは一つ一つ葉っぱを取るのではなく、先端から茎に向かって剥ぐとよい、そうめんを作った際には防虫ネットを使って冷水で締めるなど多くの知恵を享受した。

そうこうしているうちに、今宵の宴がはじまった。高橋さんのウルイのごま味噌合え、ウルイのベーコン炒めをはじめ、古野さんのコシアブラ、山ブドウ、ウド、シドケ（モミジガサ）の天ぷら、イワナのから揚げと塩焼き、生ウドとベーコンとビーフン炒め、ふきと鰹節、油揚げの煮物、鈴木さんの昆布納豆（ウドとウルイ）、ウドの一本煮など今日採った山菜や魚を使って料理してくださいました。食事の最後の締めは、油麩とウインナーのニンニク風味あんかけ丼だった。どれも絶品で、ほっぺが落ちそうだった。たらふく食べたら睡魔が襲ってきたので、古野さんのハーモニカを聞きながら私は一足早く寝かせていただいた。

翌朝、高橋さんの味噌風味そうめんをいただいた。味噌もみりんやお酒などをいれ手が込んでいたためか非常においしいそうめんだった。

身支度を整え、沢を下り始めると、今日は生憎のお天気だが暑い日ならば、ブナ林もきれいだしさぞかし気持ちがいいだろうと思った。同時に、お天気が恵まれなくても、こうして水の中をバシャバシャ歩くだけでもとっても気持ちがいいものだと感じた。

そんなことを考えていると、林道へ着いた。あつという間に沢登りが終わってしまった。でも、沢デビューの山行としては最高だったと思う。美味しい食べ物をいただき、藪こぎ、高巻きも好きだとわかり、なにより、水の気持ち良さがわかって沢登りって楽しいと思えたからだ。以前、手嶋さんが「沢登りって一番原始的な遊びだと思う、童心に帰れる。」と仰っていたがやっとその意味が納得できた。これからどんな沢に行き、どんな感動を味わうのかはわからない。しかし、今回の山行のように初めて尽くしの感



水量が増し迫力満点の盗人滝



動を私は生涯忘れることはないと思う。

【グレード】1級

【行程】6/25 林道鎌内沢出合い(9:40)～470m保呂内沢(10:20/10:40)～林道鎌内沢出合
い(11:00/11:05)～570mBP(12:35)

6/26 BP(7:50)～林道鎌内沢出合い(9:20)～林道駐車地点(9:30)

【地図】軍沢

